

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム シーサイドリビング沙美
日付	平成19年3月19日 特定非営利活動法人 ライフサポート
評価機関	
評価調査員	在宅介護経験12年
評価調査員	ケアセンター介護支援専門員経験5年
自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か</p> <p>代表者は地域への恩返しと言う思いと家族が本人を預けるとしたらどんなホームが良いかという家族に安心してもらえるグループホームを開設した。同時にデイサービスも併設している。</p> <p>利用者と生活をしていく中で、一人ひとりの利用者が「自分の思いや、関心事、したいこと、たべたいもの」等心の中で思っている希望や願いを聞いたり、察知してあげ、その一つひとつを実現できるように支援していくとしている。</p> <p>地域の人々との繋がりを大切にして、良い関係作りを目指している。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違ひ等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か</p> <p>趣味の骨董品を所狭しと持ち込んでいる人、今でも自宅に帰っては両手に下げて戻ってきて、荷物は増えるばかり。夫と共に集めた品々を眺めて楽しかった思い出を膨らませているだろう。また植木鉢を沢山自室に持ち込み楽しんで育てている利用者は、時に水浸しにすることもある。いずれも本人の気持ちを大切にしているホームの対応で、利用者にとって居心地の良い第2の我が家となっている。</p> <p>散歩コースは海や松並木が見える絶好の景観地点があり、菜園もその中間地点にある。また、ある利用者の家も途中にあって、郵便物の整理に寄っている等散歩に出る機会が多い。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

講評
<p>全体を通して(特に良いと思われる点など)</p> <p>設立して、まだ2年足らずの歳月で、利用者の生活の満足度は当然ながら、家族から積極的な協力が得られ、地域からもホームの存在感や価値観を得るようになってきた。利用者・家族・地域の人々から信頼を得たホームを運営できる事は、地域密着型サービスの原点であり、代表者を始め施設長と管理者や職員が、代表者のホームへの思い、つまり運営理念をよく理解し、一つ一つの実現のために日々努力してきた結果が、各ユニットの報告書にも実例が記載されているように、利用者、家族、地域の三位一体との関わりが同時に構築されつつあることを実感することができる。</p> <p>代表者が、3年前瀬戸内海沿岸一帯で起こった高潮被害の中で、馴染みのあったこの沙美に「地域の高齢者が安心して暮らせるよう、地域のために役立つ施設を造りたい」という信念で、災害のあった時の避難場所にもなり得るような全てのスペースを広めに余裕ある設計をしている。そして無垢の木をふんだんに使って、心豊かな気持ちと安心感が利用者にも家族にも伝わっているのだろう。このような代表者の思いが運営理念となり、その理念が、利用者、家族、地域全てに関わりを持っていることに重要なビジネスモデルを作り上げている。</p> <p>管理者も交代したりして職員の移動もあったが、代表者と施設長のコンビによって現在のホームの姿を職員と共に作り上げつつある。色々な行事をしているが、ホームの夏祭りは、家族の全面的な協力があり、地域から中学生がボランティアで運営を支え、色々な人々が参加して盛大に催しを成し遂げた。又、常時色々なボランティアの人々がホームを訪れ利用者との交流をしてくれている。公民館から介護教室の場でホームの説明や認知症の理解の話も出来るようになった。運営推進会議も回を重ねる毎に参加者も増え、活発な会議運営ができています。施設長からも、これらの運営に強い意気込み我伝わってきて、今のホームの姿に納得できる。人の心を掴むテクニックを持ち合わせたベテランの代表者の経営手腕がこの業界に新しい風を吹かせることに大いに期待しておきたい。</p>
<p>特に改善の余地があると思われる点</p> <p>次のような提案をした</p> <p>介護計画や介護・生活記録も色々工夫の跡が見られ、職員達の努力は認めている。ホームの発展と共に利用者の生活の証しをつくり、記録していく目的をしっかりと見据え、更なる効率的な記録で、利用者の生活史をつくってあげて欲しい。</p>

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にしたい整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か</p> <p>グループホームでの一番の楽しみは、「食べること」である。人間誰も仲間や家族と楽しく食べる事が最高の幸せだろう。ホームで一番の定番は「おすし」であるが、ここでは「すき焼き」が今日にメニュー。皆で野菜を切り、鍋奉行が現われ、皆で楽しく語らいの中で、すき焼きを食べた。献立を決め、食材を準備して、皆で調理する。味見をする。盛り付けをする。配膳をして皆で食べる。談義が始まる。団樂する。片付ける。この一連の時間を楽しむのが食事の時間となる。この食事の時間を皆で過ごせるホームである。</p> <p>次に、自分のしたい事が自由に出来ることだろう。それぞれの人は自分の培ってきた得意技がある。残念ながら認知症になると、自分から目的を持って自身の持っている能力を使って仕事が出来ない。これを周りの職員が引き出してくれ、順序立てをさせてくれるきっかけを与えてくれる。一つのことをやり遂げる達成感を味わわせてくれることに意義がある。これらを達成させてあげようとしているのが、このホームの職員である。利用者は、家事への参加から、自分の趣味、得意技を使ってホームのため、自分のために活動している。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。</p> <p>グループホームの運営に家族が参加し、家族の相談にも応じられる管理者や職員がいる。利用者の幸せを願い、ホームと家族が協力し合える関係を構築している事は素晴らしい。</p> <p>昨年ホームの主催で夏祭りを開催した。中学生がボランティアで参加し、利用者と一緒に楽しんでくれた。そして地域の人々がたくさん参加して、この催しを盛り上げてくれ、力にもなってくれた。そして「来年は・・・」という期待の声も出ている。</p> <p>公民館活動の一つに介護教室があり、そこでホームの説明をして地域の人に理解を得る事もできた。運営推進会議も、回を重ねる度に、参加者が増える。意見交換が活発に出来る。こんな地域との密着しているホームの事例は少ない。</p> <p>今、地域密着型サービスの提供が始まったばかりであるが、このホームの活動振りを是非モデルにして考えてみたいと思ひ、今後の活動を期待する。</p>		